

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル7階 TEL 03-6380-8540

社会教育委員の皆様へ 文部科学省生涯学習政策局社会教育課長

八木 和広

社会教育委員の皆様には、社会教育に関する諸計画の立案や社会教育活動への指導・助言など、日頃より指導的な立場で御尽力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

戦後まもなく社会教育関係法令が制定されて以来、社会教育は地域の「人づくり」を通して社会の発展に寄与してまいりました。そして、近年では少子高齢化と人口減少の進展など社会教育を取り巻く環境の変化を受けて、社会教育における学習成果を「地域づくり」の実践につなげていくことに社会の期待が高まってきました。

文部科学省では、昨年三月に、有識者会議において、「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて」の提言をいただきました。この提言では、社会教育を取り巻く環境の変化と課題を整理するとともに、今後の社会教育行政や社会教育施設の在り方について論点を整理し、学びの成果を地域づくりの実践につなげる活動を「地域課題解決学習」と位置づけ、社会教育が担う重要な役割として再確認いたしました。そして、地方公共団体が「地域課題解決学習」を推進するに当たり、社会教

育委員への期待と積極的な活用についても述べられていますので、是非御一読ください。

また、人生100年時代をどう豊かに生きるか、Society5.0といわれる超スマート社会の到来など社会の大きな転換点にある中、文部科学省では、来年度、大規模な組織再編を予定しており、生涯学習政策局は、新たに「総合教育政策局」として機能をより強化いたします。その中においてもこれまで同様、社会教育を振興することに変わりはありません。学校教育との連携も強化しながら、幅広い分野での社会教育の振興を図り、学びを通じたより良い地域づくり・社会づくりにつなげてまいりたいと考えております。

社会が大きく変化する中において、国民が豊かな人生を送る上でも、学びを支え、地域の力を引き出す社会教育は一層重要になります。今後とも、社会教育委員の皆様には、豊富な知見や経験、ネットワークを活かし、これからの人づくり・地域づくりのリーダーとして、ますます御活躍いただくことを期待しております。



八木 和広
(やぎ かずひろ)

プロフィール

- H 6・4 生涯学習政策局社会教育課
- H 9・9 体育局学校健康教育健康教育企画室
企画・健康教育係長
- H 13・7 スポーツ局生涯スポーツ課地域スポーツ振興専門官
- H 15・7 生涯学習政策局男女共同参画学習課補佐
- H 16・4 在オーストラリア大使館一等書記官
- H 22・4 香川県教委教育次長
- H 28・4 スポーツ庁政策課学校体育室長
- H 29・7 生涯学習政策局社会教育課長

第59回全国社会教育研究大会（北海道大会）を終えて

平成二十四年に準備委員会を発足させて以来、五年間にわたり一歩一歩と準備を重ねてきた全国大会は、全国各地から三百人、道内から八百人の参加、参画を得て開催することができました。

全国大会の目的は「社教連」の定款に示されている通り、全国の社会教育委員の資質と職責の向上のために開催するものです。これまでの全国大会の分科会では、行政担当者による事例発表であったり、参加者相互に意見交流できる機会が少ないなど、先進的な事業事例を学ぶメリットはありました。社会教育委員がどのような活動をしていったらよいかを取り上げられない傾向と感じていました。

そこで、当大会は「委員自らのために、委員自らがつくる大会」を目指すことにしました。昨年の千葉大会で、分科会の持ち方に一石を投じていただきました。北海道大会は、その延長線上でパネルディスカッションと分科会を通して、社会教育委員の活動そ

のものに焦点化して協議を行うことといたしました。

パネリストの一人には、これまで我が国の社会教育を理論的にリードしてきた鈴木真理さんに登壇していただくことを一年前から決めていました。その半年後に当連合の会長に就任することはその時点で想定していませんでしたので、鈴木会長には研究者との二枚看板での要請となり、ご苦勞をおかけしました。

二日目、分科会での六人グループによる話し合いは、全国各地での特色ある実践の交流ができました。結論を出すディスカッションではありませんが、これから委員として活動を進めるヒントを語り合うことができました。報告書に参加された皆様の熱い思いの一端を載せましたので、「一読いただければ幸いです。話し合いの後、「昨日のパネルがよかったですね。今日につながりました。」との声もかけていただきましたが、二日間の評価は青森以降の大会の企画に委ねたいと存じます。

次に大会の運営について、北海道での開催は今回で七回目となりました。北海道社連協事務局は行政以外のところに独自においてあり、これまでの旭川、釧路、帯広等での大会は、開催市の教育委員会を中心に実行委員会をつくっていました。今回、初めて道社連協事務局が中核となり、オール北海道十四の管内社連協で実行委員会を組織し業務を分担して大会運営を行いました。参加された皆様には、業務の分散により、行き届かない面も多々あったと存じます。手前味噌ながら、道東の委員の方から「全国大会を全員でつくり成功させようという思いが全道の皆さんに伝わり、全体的に皆さんが尽力した」との手紙が寄せられました。道内の委員が管内の役割を通して大会に参画し、それぞれに地域性や特徴を生かした取組をしたことは、今後の管内社連協の活動により結果をもたらすことでしょう。

大会終了の余韻に浸っている間に、国が次年度から開始する第三次教育



振興基本計画の審議経過概要と、文科学次年度概算要求における機構・定員要求(案)が飛び込んできました。社会教育局が生涯学習政策局へと改組されて以来三十年間に国における社会教育施策は徐々に変化をしていますが、市町村を基盤とする社会教育が再生・復活・再構築するよう行政を後押しする社会教育委員が力を増すために、三十年度青森、三十一年度兵庫と意義ある研究大会として発展させますよう願っています。

第59回全国社会教育研究大会北海道大会

実行委員会委員長 大島 峰夫

第60回全国社会教育研究大会青森大会

平成30年度東北地区社会教育研究大会
 第63回東北地区公民館大会
 第50回青森県社会教育研究大会

ご案内

社会教育の新たな種を広めよう 青い森から全国に

今大会は、昭和34(1959)年に第1回全国社会教育研究大会が開催されてから60回という節目の大会となります。今日、我が国を取り巻く諸情勢の急激な変化に伴い、社会全体の活力の低下や国の国際的な存在感の低下などが指摘されています。加えて平成23年3月11日に発生した東日本大震災がこれらの問題を一層顕在化させました。

とりわけ青森県は、日本の中でも人口減少と少子化・高齢化のスピードが速く、このまま人口減少が進めば、地域のつながりや地域活動の担い手の減少により、地域の自立的な活動が弱体化してしまうことが危惧されており、「青森型地域共生社会」の構築に向けたさまざまな取組が行われています。

持続可能で活力ある未来社会を構築していくためには、「自立」「協働」「創造」の三つの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築を目指すことが大切です。直面する危機を回避するためには、個々人の自己実現、社会の担い手の増加、格差の改善、社会全体の生産性の向上、一人一人の絆の確保を図る必要があるといわれています。このためには、社会教育関係者が一丸となって、未来志向で課題解決に挑戦していくことが求められていると思います。

本研究大会は、全国大会では初めて東北地区公民館連絡協議会と合同で開催いたします。全国各地の社会教育委員をはじめとする社会教育関係者が一堂に会し、「未来は変えることができる」、「課題は伸びしろの大きいチャンス」と、先の三つの理念の実現に向かって、一人一人が未来を変えるためには何ができるのかを研究協議したいと考えております。

なお、大会当日の青森県は、紅葉真っ盛り季節です。この機会に紅葉の名所である十和田湖や弘前城など本県の豊かな自然や歴史を巡るとともに、温泉で疲れを癒やし、おいしい料理と地酒を堪能していただければ幸いです。全国各地からたくさんの方々のお越しを心よりお待ちしております。

青森県社会教育委員連絡協議会会長

第60回全国社会教育研究大会青森大会実行委員会委員長 内海 隆

◇大会の概要

- 1 研究主題 課題をチャンスに 持続可能な未来を創る社会教育の実践を
- 2 期 日 平成30年10月24日(水)～26日(金)
- 3 会 場 〈全体会〉リンクステーションホール青森(青森市文化会館)(青森市堤町1丁目4-1)
 〈分科会〉リンクステーションホール青森及び青森国際ホテル(青森市新町1丁目6-18)
- 4 大会日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	20:30
第1日 10/24 (水)							全国社教連 理事会 15:00～16:30		全国社教連事務局 担当者会議 17:00～18:15		
第2日 10/25 (木)		全国社教連総会 10:00～11:30	受付 11:00～12:30	アトラク ション 12:30～ 13:00	開会行事 (表彰式) 13:00～ 13:50	基本 方針 13:50～ 14:20	記念 対談 14:20～ 15:20	シンポジウム 15:40～17:20	閉 会 行 事	東北公連 理事会 17:30～ 18:15	情報交換会 18:30～ 20:30
第3日 10/26 (金)	受 付	分科会(分科会毎に解散) 9:30～12:00									

5 分科会

分科会	テーマ	内 容
1	課題解決に挑戦する地域づくりと社会教育	地縁と志縁による地域づくりについて考える
2	新しい公民館の探求	地域社会の発展、活性化に寄与する人材を育む公民館のあり方について考える
3	地域全体でサポートする家庭教育	民間や学校と連携した家庭教育支援について考える
4	地域と学校の連携・協働の在り方	地域と学校の連携・協働が地域創生につながる活動について考える
5	地域を元気にするアクティブシニア	シニア・プレシニア世代が子どもたちと共につくる地域の未来について考える

・分科会は、小グループを編成し、事例発表を「たたき台」としてディスカッションを行います。

- 6 大会参加費 5,000円/人(参加資料代として)

平成29年度

地区別社会教育

研究大会

東北地区

未来へつなぐ宮城の大切なもの
子どもから大人までみんなでまなび、

みんなであつくる

第39回全国公民館研究集会・平成29年度東北地区社会教育研究大会・第62回東北地区公民館大会宮城大会が10月30日、31日に仙台国際センターを会場に900名近くの参加を得て盛大に開催されました。

1日目のアトラクションでは、東松島市立宮野森小学校5・6年生による「ふるさと宮野森太鼓」が披露され、御参加いただいた皆様の心に響きわたりました。

記念講演では、宮城県女川町出身「みやぎ絆大使」である歌手・俳優の中村雅俊氏に「出会いに感謝」と題して講演いただき、今後の復興に勇気をいただき、会場には笑顔が溢れていました。

2日目は5分科会（「地域の復興と共に歩む社会教育委員の役割」地域と学校・家庭との連携で生まれる



関東甲信越静地区

社会教育で広げよう

人の和、地域の輪

未来へつながる地域をめざして
第48回関東甲信越静社会教育研究大会静岡大会は、11月16日、17日に沼津市において、約700名の参加を得て開催されました。

初日は、地元飛龍高校による和太鼓の歓迎セレモニー、開会行事、久能山東照宮宮司により「徳川家康公と久能山東照宮」と題して、社会教育に結びつけた貴重な講演をいただきました。続いて「未来へつながる地域をめざして」をテーマにシンポジウムを行いました。2日



宮城県社会教育委員連絡協議会
会長 菅原 敏元

目は、5会場・5分科会に分かれて各県からのテーマに基づき事例発表され、助言をいただきましたながら参加者による活発な意見交換がなされました。

2日間を通して、皆様方に未来へつながる地域をめざしていただけますことを心より願っております。

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会
会長 南山 和聖

東海北陸地区

共に支え 高め合う

地域に根差した社会教育の推進
10月12日・13日、富山県富山市において、第48回東海北陸社会教育研究大会(富山大会)・第46回富山県社会教育大会が800名を超える参加を得て、盛大に開催されました。

初日はアトラクション、開会行事、記念講演が行われました。アトラクションでは、富山県民謡越中八尾おわら保存会による優美な踊り「越中おわら節」が披露されました。

記念講演では、「対話を求めて」富山県美術館がめざすもの」と題して、今年度開館した富山県美術館の雪山行二館長に、ご講演賜りました。



近畿地区

学び合い、支え合いを育む社会教育
 ～未来につながる地域づくり～
 平成29年度社会教育研究大会（京都大会）は、9月7日に京都テルサを会場に、937名の参加を得て開催されました。

午前中の講演では、京都府立鳥羽高等学校披露研究部による、和歌に節をつけて歌い上げる披露が行われ、続いて公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事の冷泉貴実子氏に「和歌と披露」と題してお話いただきました。参加者からは、「高校生

が伝統を受け継いでいる姿に胸が熱くなった。」「和の心や美の文化を改めて知り、生涯学習の一環として参考になった。」という感想をいただきました。午後からは、5つの分科会で各府県から実践発表がありました。参加者から出された質問や意見をもとに、参加者間で活発な意見交流が行われました。今後の地域での活動に、多くの示唆を得ることができました。

社会教育に寄せられる期待が高まっている今、近畿各府県の社会教育関係者が一堂に会して、学び合う機会を持つことができたことは大変意義深く、多くの皆様の御協力のもとに、実り多い大会となりましたことに心から感謝申し上げます。

京都府社会教育委員連絡協議会
 会長 本城 昌彦

中国・四国地区

大山の麓で地域の未来を語ろう

～学びと活動の循環に向けて～
 第40回中国・四国地区社会教育研究大会（鳥取大会）は、10月26日、27日の両日、鳥取県米子市の米子市文化ホールを主会場に、667人の参加を得て開催されました。



1日目は、アトラクションとして米子市指定無形民俗文化財の淀江さんこ節を保存会の方に披露いただき、その後のシンポジウムでは、社会教育主事や社会教育委員、地域で活躍されている方など様々な立場の方により、「学びと活動の循環に向けて」をテーマに活発な議論が交わされました。

記念講演では、鳥取城北高等学校校長、石浦外喜義氏に「夢は絶対叶う！相撲道と人づくり～強くても負ける 弱くても勝てる～」と題した日頃の生徒、保護者との関わりを通じた人のやる気の引き出し方など、人材育成にも繋がる話をしていただきました。

2日目は5つの分科会（家庭教育支援、青少年健全育成、地域文化の振興、地域の活性化、社会教育委員の役割と課題）に分かれ、各県からの話題提供に基づき、活発な協議や意見交換が行われました。多くの方々のご協力をいただき、実り多き大会となりましたことにお礼申し上げます。

参加された東海北陸各県の皆様
 が、今大会で学ばれたことをもとに、各地区で一層ご活躍されることを心より願っております。

東海北陸社会教育委員協議会連合会

会長 島平 勝光



2日目は、3会場に分かれ4分科会を実施しました。事例提供後、各分科会で地域の未来のために自分ができることなどを話し合いの柱として積極的な意見交換がなされました。学び得たものの人へ、地域へ還元する……。簡単なようで難しいことかもしれませんが、ぜひとも実現していただけたらと願っています。

鳥取県社会教育委員連絡協議会

会長 近藤 剛

九州地区

人と人をつむぐ社会教育の創造
地域住民主体による

ネットワークづくり

第47回九州ブロック社会教育研究大会を、標題の研究テーマのもと、11月9日・10日、宮崎県宮崎市において、837名の参加を得て盛大に開催しました。

1日目の分科会では、「家庭教育支援」「青少年の健全育成」「地域における学校との協働体制づくり」「地域づくりと社会教育委員の役割」の4つのテーマに分かれて、九州各県から実践事例を発表していただいた後、それぞれの討議の柱に沿って、熱心な研究協議が行われました。

2日目の全体会では、研究テーマをもとにパネルディスカッションを行いました。パネリストは、香川大 学生涯学習教育研究センター長の清國祐二教授、宮崎市立江南小学校の竹内一久校長、宮崎県社会教育委員連絡協議会会長の森山喜代香の3名、コーディネーターは、宮崎国際大学の相戸晴子准教授でした。それぞれの分野（社会教育、学校教育、地域づくり）から実践に裏打ちされた発言で、「人と人をつむぎ、地域住民主体によるネットワークづくり」について参加者と共に考えることができました。

2日間をとおして、今後の社会教育の振興につながる大会となりました。

宮崎県社会教育委員連絡協議会

会長 森山 喜代香



北から南から

「点」を「しなぐ」につなぐ

新潟県社会教育委員連絡協議会

会長 山田 智之



現在、社会教育と生涯学習が非常に密接な関係にあることは誰もが知るところです。

社会教育法（昭和24年法律第207号）施行時には、生涯学習というものは想定されていなかったようですが、昭和62年8月7日の臨時教育審議会第四次答申において「生涯学習体系への移行」が打ち出され、生涯学習が社会教育にとって非常に重要な位置を占めるものとなりました。

一方、平成29年3月に小・中学校の次期学習指導要領が公示され

「キャリア教育」という文言が加わりました。「キャリア教育」とは、児童生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けさせる教育のことであり、学校教育の現場では、生涯学習と密接な関係がある教育と考えられています。

Paul Lengrand（1965）は、ユネスコの成人教育推進委員会のワーキングペーパーに「教育は児童期、青年期で停止するものではない。それは、人間が生きている限りつづけられるべきである」と生涯学習について述べています。この言葉には、子どもをはじめ全ての世代に、その未来や将来、キャリア形成のための教育が重要であることが示されています。このことから社会教育とキャリア教育は、生涯学習を通じてつながっていると考えることができます。

Kandinsky（1926 西田沢 1959）は、「点から、新しい存在が生まれる。」と述べています。「点」は「点」として存在するだけでは何も生まれません。一つ一つの「点」がつながり、「線」が生まれた時に何らかの方向性が見えてきます。そして、細さや太さ、長短、

緊張の力など形態としての多様性を持った「線」がつらなり「面」が形づくられ、新しい存在が創造されます。

戦後72年が過ぎ、その歴史と教訓の中から、未来への知恵を探らなければならぬ時代の中にあつて、新たな社会教育を創造していくために、まずは、「点」を「つなく」ことから始めていきたいと考えられています。

親のまなびあい

沖縄県社会教育委員連絡協議会

会長 津留 健二



「家庭教育は総ての教育の出発点である」と言われるが、子供の生活環境は、必ずしも良いとはいえない状況がある。

そこで、沖縄県においては、平成二十五年度から学校・家庭・地域の

連携を密にし、家庭教育への支援と地域教育力の向上を図るため「沖縄県家庭教育支援推進計画」夢実現「親のまなびあい」を「家々なれ」運動を推進している。

「家々なれ」とは、沖縄の黄金言葉で「家での行いが外に出た時の行動に表れる」という意味で、家庭における教育は、子供の健全な成長にとって何よりも大切なことを強調したものである。

将来のあるべき沖縄の姿を描いた基本構想「沖縄二十一世紀ビジョン」の下に策定された「沖縄県教育大綱」の中で、県民が家庭や学校を通して育てたい子供像として「自ら学ぶ意欲」、「学力の向上」そして「豊かな表現力」と「ねばり強さ」を掲げている。

沖縄県社会教育委員の会議は、この沖縄県教育委員会の施策をバックアップするため「地域の人的資源を活用した家庭教育支援」のテーマで、地域ぐるみの家庭教育支援のあり方を目指して検討し、具体的な実践活動について「提言」を行ったところである。

その提言の一つが、「親のまなびあい」なのである。家庭を取り巻く生活環境は、急激に変化しており、

「子供の貧困」をはじめ新たな課題が提起されており、保護者が子育てに対する第一義的責任（教育基本法第十条）を果たし、「家庭・地域の教育機能の充実」を図るためには、親自身の「まなびあい」が求められており、そのためのプログラムを策定し取り組んでいる。

今後の課題としては、いかに各地区の主体的な取り組みを充実発展させていくかである。地域に根差したユニークな取り組みもあるので、「地域学校協働活動」の推進と併せて一段と充実発展させていきたい。



好評発売中

社会教育委員 必読の一冊

*法改正に対応しています

一改訂版一

社会教育委員のためのQ&A



A5判 定価1,296円(税込)
企画・編集/
(一社)全国社会教育委員連合
発行/(株)美巧社

主な内容

社会教育とは、社会教育と生涯学習
社会教育委員委嘱の範囲
諮問に応じるとは
教育委員会への助言とは
必要な研究調査とは
社会教育委員制度の活性化

社会教育と社会教育行政
实际生活に即するとは
環境を醸成するとは
社会教育を行う者とは
社会教育の振興と地方公共団体の任務
公の支配に属しないとは
教育委員会と社会教育関係団体の関係

事務局だより

平成30年度
第4回理事会・総会について

平成30年度第4回理事会・総会を2月22日(木)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①平成30年度事業計画(案)・収支予算(案)、②第60回全国大会(青森大会)、③第61回全国大会(兵庫大会)、④第62回全国大会、⑤その他、等を予定しております。

※会長の交代に伴う法務局への登記の際、平成29年5月開催の第1回総会は新理事の承認をもって閉会とし、新会長の選出報告を同日第2回総会と致すべく指導がありました。

従って平成29年9月に開催された総会が第3回総会、平成30年2月開催予定の総会は第4回総会となります。



平成30年度
第1回理事会・総会について

平成30年度第1回理事会・総会を、5月11日(金)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①平成29年度事業報告・決算報告、②第60回全国大会(青森大会)、③第61回全国大会(兵庫大会)、④第62回全国大会、⑤その他、を予定しております。



平成30年度社会教育研究大会一覧(予定)

全国大会	(青森大会)	10月24日(水)～26日(金)	青森県(青森市)
北海道地区	(後志大会)	10月12日(金)～13日(土)	後志管内(留寿都村)
東北地区	→ 全国大会と合同開催(青森県青森市)		
関東甲信越静地区	(長野大会)	11月15日(木)～16日(金)	長野県(長野市)
東海北陸地区	(岐阜大会)	10月18日(木)～19日(金)	岐阜県(大垣市)
近畿地区	(和歌山大会)	9月7日(金)	和歌山県(和歌山市)
中国・四国地区	(高知大会)	11月15日(木)～16日(金)	高知県(高知市)
九州地区	(熊本大会)	10月18日(木)～19日(金)	熊本県(熊本市)
指定都市		7月6日(金)	神奈川県(川崎市)

社教情報

社会教育の明日を拓く

社教情報 No.78

特集テーマ 持続可能な地域を創る

<巻頭言> 何のための地域創生か

尚綱学院大学学長 合田 隆史

<特集> 山崎結子、内海隆、豊田庄吾、餅木哲郎・林美輝、清國祐二

<答申・提言> 「社会が人を育み人が社会をつくる『やまなし』好循環づくり」(提言)

梶野 光信

<社会教育委員Q&A> ボランティア活動と生涯学習との関係

神部 純一

<解説> 学習指導要領

山崎 清男

<この人に聞く> 大橋謙策氏

取材 上條 秀元

<社会教育委員リレートーク> 山口県、広島県

編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合
TEL 03(6380)8540 FAX 03(6380)8541